

## **第2章　復旧・復興への取組**

### **第3節　観光**

## 第3節 観光



震災により大きな打撃を受けた観光を早急に復興させるため、地域の観光関係者等と連携し、様々な取組を行ってきた。

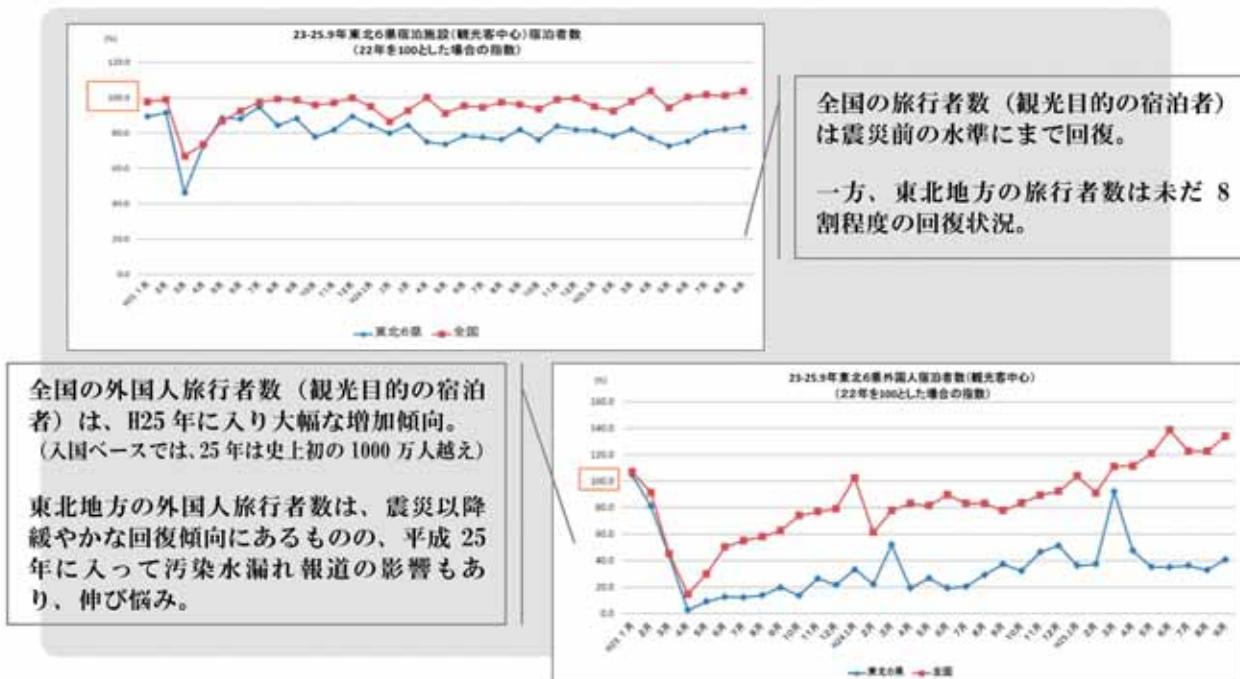
震災から3年が経過し、東北では新たな観光地域づくりが始まっている。被災した太平洋沿岸エリア、さらに内陸部や日本海側の観光地が連携し、相互の周遊を含めた観光ルートを確立する等、東北一丸となった復興を目指し、東北運輸局はサポートを実施していく。

年月日	東北運輸局の対応等
平成23年4月20日	<u>観光復興に向けた連帯の象徴となるスローガンとロゴを決定。</u> 缶バッジ、ステッカー作成のほか、東北運輸局ホームページからダウンロードを可能に。【東北観光復興ワーキンググループ（P27参照）の取組（以下、WG）】
平成23年4月27日	<u>東北観光推進機構が中心となり、復興関連情報に特化したポータルサイトを開設し、東北の観光に関わる正確な情報を発信。【WG】</u>
平成23年4月29日	<u>プロ野球球団・東北楽天ゴールデンイーグルスの本拠地開幕戦を、震災からの復興に向けたターニングポイントと位置付け、球場外にバスを設置し、東北の食と観光をPR。【WG】</u>
平成23年5月25日～ 26日	<u>東北各県の女将の方々とともに首都圏キャラバンを実施。</u> 国土交通大臣、観光庁長官等を訪問し、東北地方への誘客をアピール【WG】。
平成23年6月1日～	JR東日本とタイアップし、首都圏を中心としたポスター、広報誌への広告掲載により、時節折々の観光情報を発信。【WG】
平成23年6月26日～ 11月6日	国際的な観光需要創出に向けた調査事業を実施。 東北各県に運営委員会を設置し、県内の関係者との連携による取組を企画・実施。参加者の来訪動機等についてアンケート調査を実施。
平成23年7月8日～ 10日	首都圏主要6駅において、東北6県の物産展を開催し、誘客と風評被害の払しょくに向けたPRを実施。【WG】
平成23年6月27日～	<u>東北地方の夏祭りを契機とした観光復興を支援。</u> 多言語版HPやパンフレットを作成し外国人観光客の受入環境整備を緊急実施。
平成23年6月17日～	<u>「受入環境整備サポーター派遣事業」を実施。</u> 東北地方の外国人留学生を「受入環境整備サポーター」として、8地域に延べ157名を派遣。観光地の魅力を母国に向け情報発信してもらい、震災以降激減している外国人旅行者の誘客を図った。※平成24年度以降も継続
平成24年1月30日	<u>「東北観光博」プレオープン</u> 東北全体を博覧会場に見立て、東北の観光振興を盛り上げる国民運動の促進を目指す。
平成24年2月3日～ 10日	<u>「VISIT JAPAN 東北 復興祈念2011年度事業」を実施。</u> 韓国・台湾・シンガポール・米国から旅行エージェント及びメディアのキーパーソンを招請し、震災後における東北の観光スポットの取材や商談会を通じて、正確な情報を海外に発信。※平成24年度以降も継続

年月日	東北運輸局の対応等
平成24年3月18日～	<p><u>「東北観光博」スタート（平成25年3月31日まで）</u></p> <p>東京駅で国土交通大臣や岩手県知事などが出席してオープニングイベントを開催。公式ガイドブックの配布、東北観光博パスポートの発給を開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H24.8.1 29番目のゾーンとして「みやこエリア」を追加</li> <li>・ H24.8.1 太平洋沿岸エリアにおける情報発信の支援を開始</li> <li>・ H24.9.15 30番目のゾーンとして「気仙沼エリア」を追加</li> </ul>
平成24年4月～	<p><u>「観光地域づくりプラットフォーム支援事業（復興支援型）」</u></p> <p>被災3県（岩手・宮城・福島）の補助要件を緩和し、4協議会（南会津、宮城県仙南、石巻、盛岡）を支援。</p>
平成24年6月18日～ 10月28日	<p><u>「インバウンド再生緊急対策事業」を実施。（観光庁主催事業）</u></p> <p>「東北・北関東インバウンド再生緊急対策事業」の一環として、自治体や観光事業者等が海外主要7市場8都市で現地旅行会社等との商談会等を実施し、落ち込みが大きい訪日外国人旅行者数の回復を図った。</p>
平成24年8月2日～	<p><u>「外客受入地方拠点整備事業」を実施。</u></p> <p>「外客受入地方拠点」として選定された平泉、仙台・松島、会津若松の3地域に加え、弘前、田沢湖・角館地域を新たに選定。国・地方公共団体・民間事業者等が連携し、受入環境の整備・充実を総合的に推進。</p>
平成24年8月6日～	<p><u>「受入環境整備サポーター派遣事業」を実施。</u></p> <p>東北地方の外国人留学生を6地域に延べ211名派遣。</p>
平成24年9月24日～	<p><u>「VISIT JAPAN 東北「KIZUNA」2012事業」を実施。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H24.9.24～29 /旅行エージェント視察ツアー・交流商談会</li> <li>・ H24.10.14～20 / メディア視察</li> </ul>
平成25年3月12日	<p><u>「東北観光基本計画」を策定。（東北地方交通審議会）</u></p>
平成25年3月18日～	<p><u>「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」を実施。（12地域）</u></p> <p>観光地の魅力となり得る資源を見直し、地方公共団体、事業実施主体、旅行会社、交通事業者、旅行メディア等の総力を結集した確実な旅行商品化と情報発信を通して、魅力ある観光地づくりを推進。</p>
平成25年4月～	<p><u>「東北観光博」の枠組みを引き継ぐ施策を実施。</u></p> <p>東北観光推進機構とともに東北観光博の理念を継承し、その枠組みを継承。</p>
平成25年4月1日～	<p><u>「太平洋沿岸エリア復興支援事業スタート。（平成26年3月31日まで）</u></p>
平成25年4月1日～	<p><u>ポータルサイト「東北物語」を開設し、沿岸エリアの観光情報等を一元的に発信。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CMS入力による地域のとておき情報の発信</li> <li>・ 震災記憶の風化を防ぐため、震災前、震災時、震災後のまちの様子などを動画や写真で配信</li> <li>・ 行きたい観光スポットなどをクリックすると自動的に最短のルートと所要時間を検索できる「Myルートガイド」を構築</li> <li>・ 東北の観光復興を応援する有名アーティストなど“東北物語応援団”による応援メッセージの配信</li> </ul>
平成25年4月～	<p><u>復興商店街でつなぐ旅スタンプラリーを実施。（平成26年1月15日まで）</u></p> <p>NEXCO東日本、東北「道の駅」連絡会、東北観光推進機構と連携。 NEXCO東日本とともに、仙台在住のアーティスト「ニホンシン」によるスタンプラリーの応援ライブを開催。（9/28 菅生PA, 9/29 長者原SA, 11/9 菅生PA）</p>
平成25年8月～	<p><u>「外客受入地方拠点整備事業」を実施。</u></p> <p>「外客受入地方拠点」として選定された仙台・松島、会津若松の2地域において、それぞれの地域のニーズに応じて受入環境整備を実施。</p>

年月日	東北運輸局の対応等
平成25年8月11日	歌津復興夏まつりの支援。 震災で流され沖縄で見つかった南三陸町歌津地区の郵便ボストが返ってくることを記念し企画されたイベントを支援。
平成25年8月19日	観光立国推進地方会議の開催。 観光立国推進のため、東北運輸局と東北地方整備局が事務局となって、東北における地方出先機関に呼びかけて開催。 それぞれの期間における観光復興にかかる取り組みの紹介や取り組み実施にかかる連携協力などについて協議。
平成25年10月・ 平成26年3月	<u>地域観光案内人 広域交流研修を開催。</u> 東北観光博で認定を受けた地域観光案内人のスキルアップと地域観光案内人同士の交流促進などを目的に開催。
平成25年10月16日～	<u>「受入環境整備サポーター派遣事業」を実施。</u> 東北地方の外国人留学生を4地域に延べ40名派遣。
平成25年10月18日～	<u>チーム気仙沼設立。</u> 「沿岸地域活性化プロジェクト」としてチームを設置し、プラットフォームの構築等を目指し、GAP調査、モニターツアー等に取り組む。
平成25年10月25日～	<u>「VISIT JAPAN 東北2013事業」を実施。</u> ・H25.10.25～30 / 旅行エージェント視察ツアー・交流商談会を実施。 ・H26.2.6～16 / 「VISIT JAPAN 東北2013冬事業」としてメディア視察を実施。
平成25年11月3日～ 4日	サンファンフェスティバルの支援。 慶長遣欧使節出帆400年記念事業として、石巻市の慶長使節ミュージアムで開催。
平成25年11月～	<u>山元町における語り部組織の設立、研修会の支援。</u>
平成25年12月18日	外客向け無料Wi-Fi環境を整備。
平成26年1月14日	東北観光親善大使の第2弾として、仙台在住のミュージシャン「Rake」を任命。
平成26年2月19日	観光地ビジネス創出の総合支援事業に東北6県から9地域が採択。 観光地づくりをビジネスにつなげることにより、観光地づくりの取組を自立的かつ継続的なものとする。 売れる旅行商品の開発→観光地の担い手育成→自立的経営へ誘導。
平成26年3月2日	<u>東北がんばります！！～東日本大震災から3年～シンポジウムを開催。（仙台市）</u> 東日本大震災から3年という節目を迎え、観光による復興をさらに加速させるため、着地側では、官民一丸となって未来に向けて取り組み姿を発信し、改めて「東北へ行こう」というムーブメントを醸成し、東北観光の新たな段階へと踏み出すスタートとするもの。
平成26年3月9日	<u>東北がんばります！！～東日本大震災から3年～シンポジウムを開催。（東京都）</u> 同じく、発地側において、東北に思いを寄せる国内外の「人」「組織」のつながりを再興し、改めて「東北へ行こう」というムーブメントを醸成し、東北観光の新たな段階へと踏み出すスタートとするもの。
平成26年3月10日～ 16日	<u>「東北観光PR in 成田空港」を開催。</u> 震災から3年を機に東北の元気と観光資源のすばらしさを国内外にPRするため、成田空港において、東北各地の桜のパネル展示やパンフレットの配布などを行い、東北観光の魅力をアピールするもの。

## ■震災後の観光動向



#### ■観光復興に向けた迅速な取組

## 東北観光復興ワーキンググループの取組



楽天イーグルスの本拠地開幕戦にて、東北地方の名産品等を先着 1000 名様に無料配布 H23.4.29



東北各県の女将による首都圏キャラバン  
国土交通大臣を訪問 H23.5.25

正確な情報発信

東北観光復興ポータルサイトによる  
情報発信

東北の観光に関わる正確な情報等を発信するため、復興関連情報に特化したポータルサイト開設。(H23.4.27)



## ■広域観光地域づくりと震災からの復興

### 東北観光博の実施(平成24年度)

#### 東北観光博の概要

- 東北地域全体を一種の博覧会会場と見立て、30箇所のゾーンを核とし、官民を挙げた一体的な取組みを実施（平成25年3月末まで（平成24年3月18日から本格実施））

##### <テーマ・目標>

###### 「ここをむすび、出会いをつくる。」

- 大きく落ち込んでいる東北地域への旅行需要の喚起
- 地域が主体となって持続的に推進できる仕組みの定着

###### 東北観光博ロゴマーク

■ 東北の豊かな森をイメージした「線」。  
■ マークは幹とふれあいを具体化。人々や  
ゾーンの無限のつながり中の笑顔を表現。  
6つの線と観光客、あわせて7つが1つに  
なり、東北に大きな虹をかけるとの意味  
から7色の虹色。

##### <実施事項> 各種メディア等を活用した観光資源・各種イベントのPRの他、下記の内容について実施



#### 東北観光博における太平洋沿岸エリアに対する取組

- 太平洋沿岸エリアにおいては、地域のニーズ及び実情に十分配慮しつつ、地域における復興イベント・ボランティアに対する支援を行うとともに、観光復興情報の発信を強化
- また、旅行会社等の協力のもと、各種ツアーの実施により太平洋沿岸エリアへの送客を強化

##### 復興イベント・ボランティアに対する支援

- 太平洋沿岸エリアの復興の象徴となるイベント等への支援  
(計25件を支援)  
<代表例>
  - 復興イベント久慈駅まつり  
(JR久戸線の運行再開に併せて実施)
  - 南三陸福島市(南三陸町の商店街を舗装した物産市)
  - 冬モキラッタ雪に親しみ「親雪プロジェクト」(喜多方市)  
(雪に駆け込みの無い沿岸部及び避難者の子供向けに実施)
- 体験プログラム  
- 災害の経験を伝える取組に対する支援  
- 教育旅行モニターツアー(気仙沼市)  
(PTA関係者を対象)
- 南三陸学びのプログラム  
(現地における震災学習プログラム)

##### 太平洋沿岸エリアの情報発信強化

- 観光復興の基盤が整いつつあるみやこ・気仙沼のゾーン化
  - 東北観光博の「ゾーン」として旅のサロン等を設置
  - 東北バスポート発給によるリビーターの確保
  - ゾーンパンフ等のPRグッズの作成・配布
- その他の太平洋沿岸エリアの情報発信強化
  - 語り部
  - ボランティアプログラム
  - 復興商店街
  - イベント情報 等

##### ボランティアツアーセミナー等の実施による送客強化

- 大手旅行会社等の協力のもと、ボランティアツアーや、スタディツアーや、復興応援ツアーナなどの重点実施による太平洋沿岸エリアへの送客強化(東北観光博の関係者による実績: 41,741人[平成24年1月~12月])

※ 東北観光博と連動して実施した大手旅行会社、交通事業者、沿岸エリア内旅行会社等より聞き取ったもののみであり、これ以外にも様々な関係者により実施されたものがあることに留意

##### シンポジウムの開催

- ボランティア参加者の声や受入地域の事例などの情報共有と太平洋沿岸エリア関係者の交流を促進  
(2012年3月21日実施: 121名参加)

太平洋沿岸エリア復興支援事業(平成25年度)

## 事業テーマ：東北の観光復興と再生

## 基本方針および取組みの柱

1 「交流の拡大」

- 地域主体官民連携組織を構築し、滞在交流型観光のための受入れ基盤・環境を整備
  - 地域素材の発掘・磨き上げによる商品造成および送客強化

## 2 「震災の記憶の風化防止」

- 地域住民・事業者等自らが継続的に旬な情報発信
  - 語り部の育成、ICT活用、親子防災教育ツアーノ

## 東北地域の太平洋沿岸エリア復興支援事業について



情報発信・PRの支援

○ポータルサイト「東北物語」

#### CMS入力による地域のとおき情報の登信



行きたい観光スポットなどをクリックすると自動的に最短のルートと所要時間を検索できる「Myルートガイド」を構築。



○復興商店街でつなぐ旅スタンプラリーの展開

東北観光推進機構・NEXCO東日本、東北「道の駅」連絡会と連携して実施。



## 地域の受入基盤の整備

#### ○地域観光案内人広域交流研修の開催



被災した太平洋沿岸部での観光復興の取組みの共有を図り、コミュニケーション力、情報収集・発進力の向上と広域ネットワークの構築を目指す。

- ・南東北エリア（10.15 コラッセ福島）
  - ・北東北エリア（10.21 盛岡マリオス）

#### ○地域における滞在プログラム等の造成支援

- ・ 良質な滞在プログラム等の造成が図れるような仕組み作りを支援
  - ・ 地域の観光まちづくりワークショップなどに旅行エージェントの目利きや地域プランナーなどを派遣

※気仙沼市：10月～11月に観光資源磨き上げのためのワークショップ（旅づくり塾）を開催。その後に、首都圏を中心にそれらの資源に関するキャップ調査を行い、モニターツアーも実施し、旅行商品の造成を図る。



地域ならではの旅行商品・復興ツアーの造成促進



データベース化された素材を一括して大手旅行代理店などが見られる「東北復興・旅の市場ファイルサーバ」を構築。

- ・「旅の市場」の素材を組み合わせて沿岸エリア等の旅行商品造成に活用
  - ・モニターツアーによる検証についても支援
  - ・これまでのモニターツアーの実績は557人を送客(3/7現在)

震災の記憶の風化防止



震災記憶の風化を防ぐため、震災前、震災時、震災後のまちの様子などを動画や写真で配信。

H25.11.14 山元町にて、語りべの組織立ちあげを支援し、12.15 若者向け養成研修を実施。



## 官民協働した魅力ある観光地の再建・強化

○地域の特色ある素材の発掘や地域と旅行会社、交通事業者、旅行メディア等の総力の結集のための枠組みによる確実な商品化と情報発信等を行い、魅力ある観光地づくりを推進する。  
東北6県12の地域により、確実な商品化に向けた魅力ある観光地づくりの取組みを実施。

**【対象地域】**

- NPOかなぎ元気俱楽部会(五所川原市)  
【提案名】奥津軽文化のルーツ 青森ひば村と明治の豪商を探る旅  
【対象地域】五所川原市
- 弘前市観光局観光地マップ、国際広域観光課(弘前市)  
【提案名】都市型企業・大学と連携した「CSV(Creating Shared Value)ビジネス創出実践・体感型研修」の実証  
【対象地域】弘前市・程白神エリア
- にかほ市観光協会プロジェクトチーム(にかほ市)  
【提案名】ふるさとの温もり・にかほっ！島めぐり  
【対象地域】にかほ市
- 山形鉄道株式会社(長井市)  
【提案名】長井線100周年記念！レールツーリズム事業～ 線路は続くよ～どこまでも♪～  
【対象地域】長井市・白鷗町・川西町・南陽市
- 赤湯温泉旅館協同組合(南陽市)  
【提案名】旅館とワイナリー若見郡がご案内！ワインの似合う大人のまちプロジェクト  
【対象地域】南陽市
- 喜多方観光協会(喜多方市)  
【提案名】約3,000年前の文字に触れる漢字のまち「喜多方」って、読めっかよ？読みねがったら、喜多方に来てみなんしょ！  
【対象地域】喜多方市
- NPO十和田市観光協会(十和田市)  
【提案名】地元「和酒女子」と行く、豊かな水の恵みがもたらす「美」と「酒」体感ツアー  
【対象地域】十和田市
- NPO久慈広域観光協会(久慈市)  
【提案名】北限の海女が潜るまち海女(あま)的北三陸探訪  
【対象地域】久慈市、洋野町、野田村、普代村
- 八幡平・七時雨マウンテントレインフェス実行委員会(八幡平市)  
【提案名】七時雨(ななしぐれ)Run & Ownシステムによる地域活性化  
【対象地域】八幡平市
- 大崎市シティプロモーション推進協議会(大崎市)  
【提案名】五感を癒すき癒醉ツーリズム～みやぎ大崎ふつふつ共和国  
【対象地域】大崎市
- Tatton事務局(東松島市)  
【提案名】塩害の土地で新しい産業を生む“Tattonプロジェクト”応援ツアー  
【対象地域】東松島市
- 飯坂温泉旅館協同組合(福島市)  
【提案名】温泉でサッカー・ツーリズム  
【対象地域】福島市

**1. 資源の発掘**

- 観光資源の「目利き」(※)による訴求性の高いコンセプトの設定
- 「地域の担い手」から観光資源の提案

**2. 資源の磨き**

- 支援対象の選定
- 「目利き」の派遣
- 「地域の担い手」と「目利き」が一体となった資源の磨き

**3. 試行ツアー造成**

- 試行ツアーを実施し、市場の目を通した効果検証
- 効果検証を踏まえた商品内容の改善
- 商品化への絞り込み

**確実な商品化**

観光資源の磨き上げ、試行ツアーよによる効果検証を踏まえた観光資源の確実な商品化

**地域の魅力の全国発信**

本事業で磨き上げた観光資源と地域の魅力を商談会の開催等により全国に発信

## ■東北への外国人旅行者の回復・拡大

**東北に来て、実際に見てもらう事業  
(VISIT JAPAN 東北事業)**

**東北視察**

震災後の外国人観客受入に支障のない被災地を含む東北の観光スポットを視察し、東北の安全性を認識させ、海外に東北の安全・安心をPR。

**商談会**

東北の観光関係者と外国の旅行エージェントによる商談を実施し、ツアーコンストラクターと現地の観光関係者との商談会(仙台)

**海外に出て東北を売り込む事業  
(現地プロモーション事業)**

**旅行博出展・セミナー**

海外で実施される旅行博覧会に日本・東北として官民一体で出展し、東北の魅力や現状を、海外の一般消費者、現地旅行会社等に直接訴えかける。

**広告宣伝**

昨今、影響力が高まっているウェブをはじめ、現地で有力なメディアを活用して、東北の観光魅力に対する情報発信を行う。

## 外国人の受入環境整備

震災後、東北地方における訪日外国人旅行者数は大きく減少したことから、正確な安全・安心情報の発信を行い、地方自治体や民間企業等関係者と連携して東北全体で海外からの誘客促進を図った。

### 東北地方における外客受入地方拠点整備事業

東北における「外客受入地方拠点」として選定された地域において、国・地方公共団体・民間事業者等が連携し、受入環境の整備・充実を総合的に推進。

【事業実施地域】 平成23年度：平泉、仙台・松島、会津若松

平成24年度：平泉、仙台・松島、会津若松、弘前、田沢湖・角館

平成25年度：仙台・松島、会津若松

#### 平成25年度の事業内容

地方拠点において訪日外国人旅行者の受入に必要不可欠な環境を整えるため、マーケットの視点を踏まえたうえで、それぞれの地域の課題に沿った整備を行うことにより、訪日外国人旅行者の満足度の高い受入環境を実現する。



##### 仙台・松島

観光施設等におけるICTを活用した外国語対応、決済環境改善

統一的なフォームによる観光施設の情報提供と、施設の利用予約や料金の決済を可能とする手法を検討し、地域での決済環境を改善することで、旅行者の利便性の向上を図る。

##### 会津若松

地域在住外国人の組織化・ボランティアガイドの活用による室内機能の強化

地域在住外国人の組織化によりボランティアガイドネットワークを拡大させ、効果的に活用する手法を検討し、地域全体の受入環境水準を向上させることで、旅行者の不便不満を解消する。

### 受入環境整備センター派遣事業

東北地方の外国人留学生等を「受入環境整備センター」として地域の観光地に派遣し、観光地の魅力を母国に向け情報発信してもらい、震災以降激減している外国人旅行者の誘客を図った。

【事業実施地域】

平成23年度：8地域（十和田湖広域観光圏、田沢湖・角館エリアほか）、延べ157名

平成24年度：6地域（弘前、宮古、気仙沼、男鹿、酒田、いわき）、延べ211名

平成25年度：4地域（深浦、住田、石巻、鶴岡）、延べ40名

#### 平成25年度の事業内容

がんばろう! 東北

観光地における案内・誘導表示の整備状況や観光情報の提供状況など、外国人旅行者の受入環境を確認後、改善すべき点などを意見交換会等を通じて提案するとともに、センターは当該地域の魅力を、SNSで母国に発信。

##### 平成25年度実施地域(4地域)



2013年10月19日(土)～20日(日) 住田町  
10月26日(土)～27日(日) 鶴岡市  
11月16日(土)～17日(日) 石巻市  
2014年1月25日(土)～26日(日) 深浦町  
※英語、中国語(繁・簡)、韓国語の留学生等を派遣。



##### 案内・誘導表示等の確認

- ・観光案内の案内カウンターや備え付けのマップ、パンフレット等
- ・観光施設の説明板、誘導サインにおける多言語対応状況
- ・地方鉄道、市内電車バス、遊覧船など観光資源としての役割も問うた  
公共交通機関の多言語対応状況等



##### センターと自治体関係者との意見交換会開催

<自治体関係者からの主な回答>

- ・多言語表記の重要性が理解できた。全体のポリュームを考慮し、中(監修)・韓の表記を行なうどうかを決めたい。
- ・Wi-Fiスポットの充実を検討したい。



提案された改善点などについて意見交換を行い、受入環境の向上を図る